

エコアクション 21

環境活動レポート

対象期間 2023 年 4 月 ～2024 年 3 月

発行日 2024 年 5 月 31 日



株式会社 とませい

本 社	〒053-0053 苫小牧市柳町 2 丁目 2 番 8 号 TEL:0144-51-6556 /FAX:0144-56-5070
エコワークス苫小牧	〒059-1372 苫小牧市字勇払 286 番地 8 TEL:0144-56-2004 /FAX:0144-56-2005
有明事業所	〒053-0812 苫小牧市有明町 1 丁目 2 番 40 号

計画の策定(Plan)

(1) 組織の概要(事業者名, 所在地, 事業の概要, 事業規模など)

1.事業所名・所在地

○組織名 :株式会社とませい

○代表者名:代表取締役 渡辺 秀敏

○事業所名及び所在地

本社 :北海道苫小牧市柳町2丁目2番8号

エコワークス苫小牧 :北海道苫小牧市字勇払286番地8

有明事業所 :北海道苫小牧市有明町1丁目2番40号

2.事業の概要

○一般廃棄物及び産業廃棄物の収集運搬

○産業廃棄物の中間処理

○上下水道・浄化槽・道路などの清掃・維持管理

3.環境管理責任者 及び 環境管理担当者

環境管理責任者 :専務取締役 藤川 正史

環境事務局長 :常務取締役 湊 崇

4.事業規模

【設立】 昭和43年9月27日

【資本金】 2000万円

【社員数】 91名

【年度売上高】 14億4800万円

【保有車両の種類・台数】

柳町本社

高圧洗浄車 2 台

超高圧洗浄車 1 台

強力吸引車(10t 以上) 1 台

特殊強力吸引車(10t 以上) 8 台

給水車 2 台

テレビカメラ車(小中口径))1 台

路面清掃車 2 台

水密ダンプトラック 5 台

衛生車(し尿等バキューム車) 3 台

塵芥車(ゴミ収集車) 18 台

クラムシェル車 3 台

ダンプトラック 5 台

クレーン付きトラック 2 台

フックロール車 5 台

フォークリフト 1 台

ホイールローダー 1 台

ショベルローダ 1 台

キャブオーバー 3 台

エコワークス苫小牧

特殊強力吸引車(10t 以上) 1 台

ホイールローダー(2.0 クラス) 1 台

ホイールローダー(1.3 クラス) 1 台

バックホウ(0.4 クラス) 2 台

バックホウ(0.14 クラス) 1 台

土質改良機(コマツ・BZ210) 1 台

土質改良機(日立・SR2000G) 1 台

フォークリフト(2.5t クラス) 1 台

有明事業所

塵芥車(ゴミ収集車) 6 台

ショベルローダ 1 台

【産業廃棄物処理業における施設などの状況および認可】

1. 許可の内容及び施設等の状況

一般廃棄物収集運搬許可 苫小牧市許可 1 号

許可年月日 令和 4 年 10 月 1 日 許可の有効期限 令和 6 年 3 月 31 日

事業の範囲 一般廃棄物、特別管理一般廃棄物、浄化槽汚泥等

積替え保管あり(家電 4 品目・資源ごみに限る)

安平・厚真行政事務組合

許可期間 令和 5 年 4 月 1 日 から 令和 7 年 3 月 31 日 まで

許可の種類 収集運搬業

平取町外 2 町衛生施設組合

許可期間 令和 5 年 8 月 1 日 から 令和 7 年 7 月 31 日 まで

許可の種類 収集運搬業

産業廃棄物収集運搬業許可 許可番号 第 00110004831 号

許可年月日 令和 4 年(2022 年)9 月 16 日 許可の有効年月日 令和 11 年(2029 年)8 月 30 日

事業の範囲

燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残さ、ゴムくず、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、鉱さい、以上、石綿含有産業廃棄物であるものを含む。

また、水銀使用製品産業廃棄物であるものを含む。

積替保管施設

設置場所 苫小牧市有明町 1 丁目 2 番 40 号

保管場所 1 廃油(廃食油)

面積 1.8 m² 保管上限 0.36 m³ 高さ 0.35m

保管場所 2 廃プラスチック類

面積 36.0 m² 保管上限 43.7 m³ 高さ 1.5m

保管場所 3 木くず

面積 12.0 m² 保管上限 9.8 m³ 高さ 1.5m

保管場所 4 金属くず

面積 13.2 m² 保管上限 5.1 m³ 高さ 0.5m

保管場所 5 ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず

面積 12.5 m² 保管上限 7.4 m³ 高さ 1.5m

保管場所 6 紙くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず(廃石膏ボード)

面積 15.0 m² 保管上限 6.7 m³ 高さ 1.4m

保管場所 7 廃プラスチック類、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず(廃蛍光管)

面積 3.0 m² 保管上限 2.1 m³ 高さ 0.8m

保管場所 8 がれき類(コンクリートがら)

面積 22.5 m² 保管上限 9.7 m³ 高さ 0.5m

保管場所 9 がれき類

面積 32.1 m² 保管上限 19.5 m³ 高さ 0.7m

産業廃棄物処分業許可証 許可番号 第 00120004831 号

許可年月日 令和 6 年(2024 年)2 月 16 日 許可の有効年月日 令和 11 年(2029 年)8 月 30 日

1.事業の範囲

再生覆土材等の製造(脱水・造粒固化(燃え殻、汚泥(造粒固化にあたっては無機性のものに限る。)、ばいじん))、

肥料原料等の製造(分離・生物処理(汚泥(有機性のものに限る。)、廃油(動植物性のものに限る。)、廃酸(有機性のものに限る。)、廃アルカリ(有機性のものに限る。)))、

コンクリート製品の製造(造粒固化(燃え殻、鉱さい、ばいじん))、

再生骨材等の製造(破碎(ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず))。

2.事業の用に供するすべての施設

施設の種類 汚泥の脱水施設

設置場所 苫小牧市字勇払 286 番地 2 及び 8

設置年月日 平成 16 年(2004 年)4 月 21 日

処理能力 59.0 m³/日(24 時間)、2.5 m³/時間

許可年月日 平成 18 年(2006 年)2 月 9 日

許可番号 胆環生第 2969 号

施設の種類 燃え殻、汚泥（無機性に限る。）、ばいじんの造粒固化施設
設置場所 苫小牧市字勇払 288 番地 1
設置年月日 平成 23 年(2011 年)6 月 29 日
処理能力 1186.4 m³/日(8 時間)、148.3 m³/時間

施設の種類 汚泥（有機性のものに限る。）、廃油（動植物性のものに限る。）、
廃酸（有機性のものに限る。）、廃アルカリ（有機性のものに限る。）
の分離・生物処理施設
設置場所 苫小牧市字勇払 286 番地 2、3、8 及び 9
設置年月日 平成 17 年(2005 年)5 月 23 日
処理能力 187.7 m³/日(24 時間)、7.8 m³/時間

施設の種類 燃え殻、汚泥（無機性のものに限る。）、ばいじんの造粒固化施設
設置場所 苫小牧市字勇払 288 番地 1
設置年月日 令和 4 年(2022 年)10 月 20 日
処理能力 1320 m³/日(8 時間)、165 m³/時間

施設の種類 ばいじんの固化材・不溶化材の製造施設
設置場所 苫小牧市字勇払 286 番地 8
設置年月日 令和 4 年(2022 年)10 月 20 日
設置能力 96.0 m³/日(24 時間)、4.0 m³/時間

施設の種類 燃え殻、汚泥（無機性のものに限る。）、ばいじんの造粒固化施設及び燃え殻、鉍さい、
ばいじんのコンクリート製品の製造施設
設置場所 苫小牧市字勇払 288 番地 1
設置年月日 令和 5 年(2023 年)2 月 22 日
処理能力 (燃え殻、汚泥、ばいじん)249.6t/日(8 時間)、31.2t/時間
(燃え殻、鉍さい、ばいじん)154.2t/日(8 時間)、19.2t/時間

施設の種類 ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くずの破碎施設
設置場所 苫小牧市字勇払 288 番地 1
設置年月日 令和 5 年(2023 年)12 月 25 日
処理能力 928t/日(8 時間)、116t/時間

施設の種類	保管場所 1
設置場所	苫小牧市字勇払 286 番地 2、3、8 及び 9
面 積	103.7 m ²
種 類	ばいじん
保管上限	148.2 m ³
高さ	2.5m
施設の種類	保管場所 2
設置場所	苫小牧市字勇払 286 番地 2、3、8 及び 9
面 積	7.84 m ²
種 類	ばいじん
保管上限	10.0 m ³
施設の種類	保管場所 3
設置場所	苫小牧市字勇払 286 番地 2、3、8 及び 9
面 積	20.8 m ²
種 類	汚泥(有機性のものに限る。)、廃油(動植物性のものに限る。)、 廃酸(有機性のものに限る。)、廃アルカリ(有機性のものに限る。)
保管上限	38.4 m ³
施設の種類	保管場所 4
設置場所	苫小牧市字勇払 286 番地 8
面 積	9.9 m ²
種 類	ばいじん
保管上限	36.3 m ³
施設の種類	保管場所 5
設置場所	苫小牧市字勇払 288 番地 1
面 積	4.9 m ²
種 類	ばいじん
保管上限	28 m ³

施設の種類	保管場所 6
設置場所	苫小牧市字勇払 288 番地 1
面 積	25 m ²
種 類	ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず
保管上限	10.4 m ³
高さ	1.25 m ³

施設の種類	保管場所 7
設置場所	苫小牧市字勇払 288 番地 1
面 積	30 m ²
種 類	燃え殻
保管上限	32.4 m ³
高さ	1.69 m ³

施設の種類	保管場所 8
設置場所	苫小牧市字勇払 288 番地 1
面 積	30 m ²
種 類	鉱さい
保管上限	32.4 m ³
高さ	1.69 m ³

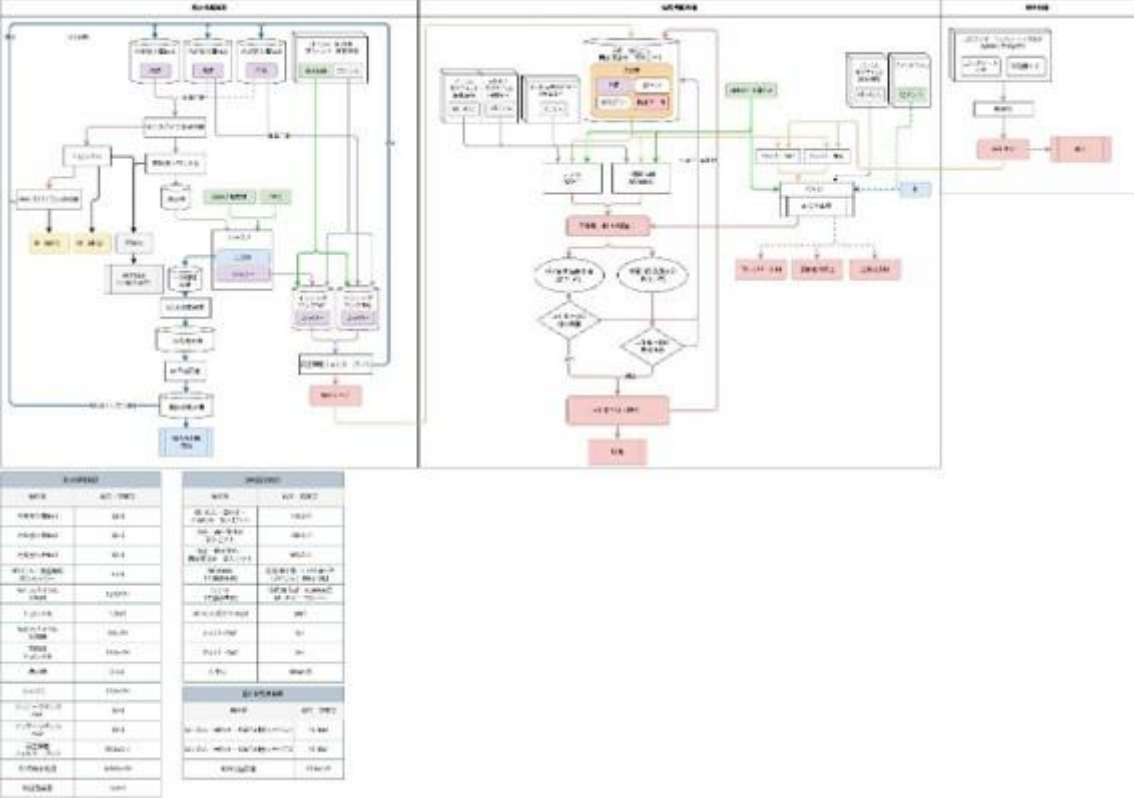
【産業廃棄物の処理実績】

受託した産業廃棄物の 処理量(2023 年度 4 月～2024 年 3 月)

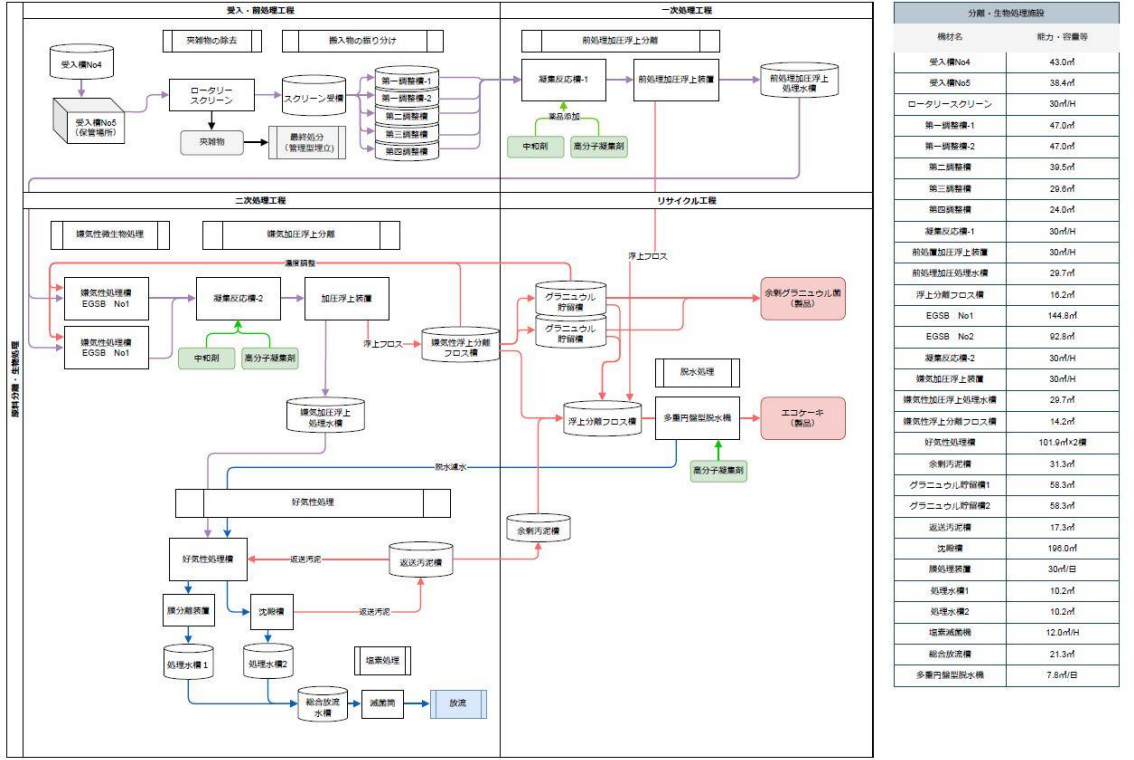
収集運搬量:9847.15t

中間処理量:22455.55t

【処理方式、処理工程図】



肥料原料等の製造



2. 対象範囲・期間・発行日

対象範囲

株式会社とませい 全組織

（事業活動：一般廃棄物及び産業廃棄物の収集運搬、産業廃棄物の中間処理、上下水道・浄化槽・道路などの清掃・維持管理）

対象期間

2023 年 4 月～2024 年 3 月

発行日

2024 年 5 月 23 日

(3) 環境経営方針

基本理念

TOMASEI グループは地球を愛し、ここに生きる人々を愛しています。

そしてこれからを担う子供達や未来の子供達へ美しい地球と、本当の「豊かさ」と「幸せ」を手渡すために独創的なエコプロジェクトで新たな技術に挑戦します。

”持続可能な環境の創造は地球市民に課せられた使命である”と認識し、環境及び周辺地域への影響を低減するため、社員一人ひとりが責任を持って環境保全活動に取り組みます。

エコアクション 21 行動方針

- 1.環境及び廃棄物処理事業に関わる法規制等を順守します。
- 2.環境マネジメントシステムの運用により電気・燃料など環境負荷低減の目標を設定し、
継続的改善に努めます。
- 3.当社の環境教育、啓発活動を推進し、環境行動の基盤である全社員の意識の継続的
向上を図ります。
- 4.当社の環境方針を広く一般に発信し、上下水道などの公共インフラに対する環境保全活動
を進め、地域社会に貢献します。

2021 年 5 月 31 日

渡辺 秀敏

(4) 環境経営目標・環境経営計画

株式会社 とませい

環境経営目標(中期:2024年度～2026年度)

REV:1
作成日:2024年3月28日

環境経営目標(中期)			2024年度	2025年度	2026年度
	項目	測定方法			
1	CO2排出量の削減	CO2排出量－CO2削減量	-1200t-CO2	-1300t-CO2	-1400t-CO2
2	廃棄物排出量の削減	産業廃棄物排出量	1,000t	980t	960t
3	水使用量の削減	上水使用量	8,400㎡	8,300㎡	8,200㎡
4	化学物質使用量の削減	PRTR法に準ずる化学物質の使用は ガソリンと軽油のみ、 目標定てない			
5	受託した産業廃棄物の収集運搬 ・処分における環境配慮に関する 項目	再生掘土材等及び コンクリート製品の製造量	20,000㎡	21,000㎡	22,000㎡

※単位使用量あたりの排出量は0.000434[t-CO2/kWh](令和3年度実績 令和5年1月24日環境省・経済産業省公表)
※目標値については、本社移転及び新プラントの稼働実績をもとに計画

株式会社 とませい

環境経営計画(2024年度)

REV:1
作成日:2024年3月28日

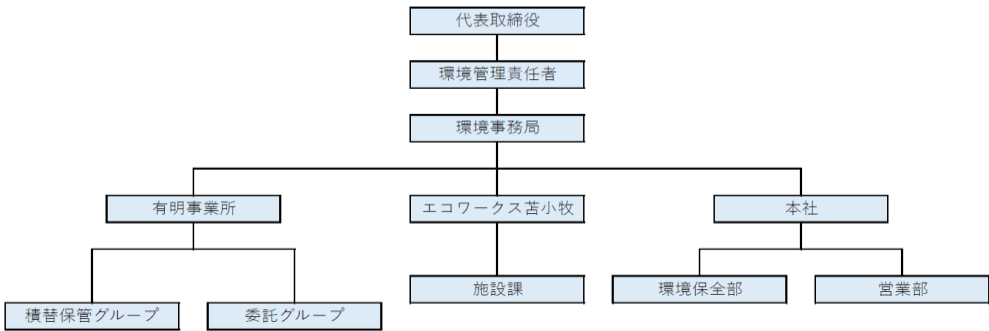
	項目	測定方法(目標値)	達成手段	日数	責任者	担当者
1	CO2排出量の削減	CO2排出量－CO2削減量 (-1200t-CO2)	・指示物による節電活動促進 ・デジタルコトラレコによる修費改善 ・カーボンニュートラル原料の使用による 排出量削減	毎月	森下 鳥谷部	袴田 政氏
2	廃棄物排出量の削減	産業廃棄物排出量(1,000t)	・資源の分別 ・排出前に水分を減らす	毎月	森下 鳥谷部	袴田 政氏
3	水使用量の削減	上水使用量(8,400㎡)	・指示物による節水促進 ・弁戸水、処理水利用による使用量削減	2か月	森下 鳥谷部	袴田 政氏
4	化学物質使用量の削減	PRTR法、科学物質なし、 目標定てない				
5	受託した産業廃棄物の収集運搬 ・処分における環境配慮に関する 項目	再生掘土材等及び コンクリート製品の製造量増量 (20,000㎡)	・原料受入量の増加 ・プラントの安定稼働	毎月	鳥谷部	政氏

計画の実施(Do)

(5) 環境経営計画に基づき実施した取組内容(実施体制を含む)

1.実施体制

株式会社とませい 組織図
令和5年11月1日現在



EA21

作成日:2023.4.10

代表者：環境経営システムの最高責任者 渡辺 秀敏 「経営における課題とチャンス」の整理・明確化・見直し - 環境経営方針の策定・見直し - EA21を運用・書類の承認 - 環境経営システムの定期的な確認・評価 - 是正処置・予防処置作成の指示 - 環境経営レポートの承認	環境管理責任者：環境経営システムの実務責任者 藤川 - 環境経営目標・計画の確認 - 環境事務局の業務統括 - 各訓練の実施指示 - EA21の実施体制構築・周知(代表者代行) - 環境経営システムの定期的な確認・評価 - 是正処置・予防処置作成の指示 - 環境経営目標及び計画・実施体制の見直しと指示(代表者代行) - 環境経営レポートの確認	EA21事務局：環境経営システムの事務・運用補助 湊・常磐井 - データ等の集計 - 環境関連法規等の一覧表の管理・最新情報の吸い上げ - 環境経営方針・目標・計画の立案・見直し - 活動に関する手順書の作成補助 - 環境経営レポートの情報とりまとめ・作成 - 各文書類のとりまとめ・保管 - 各文書類一覧の作成 - EA21中央事務局とのやり取り
所属長：環境経営システムの計画・実施指示者 柳町本社 責任者：森下 担当者：袴田 - 環境経営方針・目標・計画の周知・活動指示 - 環境関連法規等の最新情報のチェック・従業員への指導 - SDS一覧表・対応表の作成/SDSの管理 - 薬品・薬剤・油脂・化学物質及び危険物の適正管理 - その他環境関連法規の遵守に関わる届出・測定・記録の運用・管理 - 全従業員対象のEA21教育・訓練の実施 - 環境に関する特定の業務の教育計画作成・教育・訓練 - 業務やEA21の活動に関する作業フロー・手順書の作成指示・見直し指示 - 環境情報受け記録の作成 - 顧客の要求事項一覧の見直し・管理 「環境上の緊急事態特定一覧表」「対応手順書」の作成/見直し・訓練の実施 - 環境経営レポートに必要な情報の提供・分析 - その他事故や問題発生時の報告		
社員：環境経営システムの実施者 - 環境への負荷の自己チェックシート・その他モニタリングデータの入力 - EA21の教育訓練の受講 - 方針・目標・目的の理解・活動 - 環境関連法規等の遵守 - 環境関連法規等に関連する薬物適正管理・測定や記録 - 環境に関する業務の訓練の受講 - 業務やEA21の活動に関する作業フロー・手順書の作成・更新 - 顧客の要求事項一覧の作成・随時整理 - 環境上の緊急事態訓練参加 - 環境上の緊急事態対応訓練と報告・有効性の検証の作成		

取組状況の確認及び評価(Check)

(6) 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価

当社の環境事務局では、環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組を「環境への取組自己チェック表」と「環境への負荷自己チェック表」にて収集し、以下に結果・評価をまとめました。

期間は 2023 年 4 月～2024 年 3 月です。

EA21 R5年度 環境経営目標・計画

環境経営目標			環境経営計画		責任者		担当		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	3月
1	CO2排出量の モニタリング※1	電力使用量削減	ナチュラムビズの呼びかけ、実施	達成 予定	持田 政枝 伊藤	▼夏季節電															
		電力使用量モニタリング	▼ナチュラムビズ			▼新体制への移行・新施設稼働のため、新体制でのモニタリング															
		燃料使用量削減	燃料追加剤の使用・モニタリング 新体制の構築			▼モニタリング ▼高橋とりまとめ・会議・新体制でのモニタリングスタート															
		エコドライブ啓発	▼安全衛生委員会にて周知(電報付)																		
2	水使用量の維持 ※2	節水の呼びかけ	節水ポスターの掲示・モニタリング・使用量の フィードバック	達成 予定	持田 政枝 伊藤	▼新体制への移行・新施設稼働のため、新体制でのモニタリング / 節水ポスターの掲示などでの節水の呼びかけ															
3	産業廃棄物発生量の維持 ※3	モニタリング	新体制でのモニタリング			▼新体制への移行・新施設稼働のため、新体制でのモニタリング															
4	社会貢献	リサイクル・寄付	ベトナムフェアトレード・使用済み切手・紙類 ・食器類・資源箱			▼適宜で収集、寄付、処理できるものは数量累計 / 分別の呼びかけ															
		SDGs推進	地域の清掃活動への参加			▼水を汚染から守る会にて清掃活動参加予定)															
5	高品質な材質の 原料受入量目標 7000kg/年※4	製造量の集計 モニタリング	新施設稼働のための新体制モニタリング	達成 予定	持田 政枝	▼毎月とりまとめ・フィードバック															
6	サステナブルシステムによる 節電で削減される廃棄 物の削減	バイオマス燃焼炉の 受入量のモニタリング	システムの安定稼働			▼毎月とりまとめ・フィードバック															
7	サステナブルシステムによる CO2排出量の削減	バイオマス燃焼炉の 受入量のモニタリング	システムの安定稼働			▼毎月とりまとめ・フィードバック															

※ 新施設にて都市ガスを使用するため、新たに都市ガスのモニタリングを開始

※1 業務として大量の水を使うため、現状維持目標

※2 業務内容により廃棄量が大きく変動するため、現状維持目標

※3 99%削減に達するまで中間期の使用量は99%削減をめぐりながら、目標を立てていない

※4 新施設稼働のため、従来の564,400kg(2016年度比)から上方修正

1. CO2 排出量のモニタリング

・電気使用量の削減

ナチュラルビズや節電のポスターを掲示し、電気使用量のモニタリング・集計を行いました。

結果は以下の通りです。

CO2排出量 (t-CO2) = 電気使用量 (kWh) × 単位使用量あたりの排出量 (t-CO2/kWh)	4月分	5月分	6月分	7月分	8月分	9月分	10月分	11月分	12月分	1月分	2月分	3月分	計
総計 全社(kWh)	4,512	3,683	2,720	2,760	3,088	3,763	2,773	4,268	5,462	4,395	7,081	7,214	51,719
有明事務所 (kWh)	1,024	577	352	445	552	548	472	822	1,090	1,998	1,596	1,469	10,945
エゴワークス (kWh)	27,398	32,141	25,715	29,280	25,463	23,011	34,886	34,230	30,290	25,845	25,500	25,793	339,552
高松地区用電量合計 (kWh)	32,934	36,401	28,787	32,485	29,103	27,322	38,131	39,320	36,842	32,238	34,177	34,476	402,216
CO2排出量 (t-CO2)	19.79	21.88	17.30	19.52	17.49	16.42	22.92	23.63	22.14	19.38	20.54	20.72	242
単位使用量あたりの排出量(t-CO2/kWh)	0.00091 (t-CO2/kWh)												



・燃料使用量の削減

燃料添加剤による燃料使用量削減活動の結果については、別添資料を添付してあります。

今年度は吸引車3台と塵芥車 10 台を行い、引き続きモニタリングを行います。

CO2 排出量合計

2022 年度:1158.84t

2023 年度:1145.61t

年間を通して新社屋の稼働やサステナブルシステムの稼働があり、CO2 排出量は増加すると予測されましたが、CO2 排出量は概ね維持することができ、2023 年度は 2022 年度から約 1.14%削減することに成功しました。

引き続き目標達成に向けてモニタリング及び結果のフィードバックを実施していきます。

2. 水使用量の維持

環境目標達成のため、水道使用量を集計しました。

結果は以下の通りです。

水使用量							
	4・5月分	6・7月分	8・9月分	10・11月分	12・1月分	2・3月分	計
柳町本社 (㎡)	793	680	1296	821	596	451	4,637
有明事業所 (㎡)	74	39	41	29	35	40	258
エコワークス (㎡)	383	843	822	609	565	441	3,663
水道使用量合計 (㎡)	1,250	1,562	2,159	1,459	1,196	932	8,558

水使用量合計

2022 年度:3,906 ㎡

2023 年度:8,558 ㎡

エコワークスの施設稼働により水使用量合計が 2022 年度に比べ 54.3%増えましたが、次年度以降は井戸水の利用ができるようになりますので、節水ポスターの掲示や呼びかけをし、引き続きモニタリング及び結果のフィードバックを実施していきます。

3. 産業廃棄物の発生量の維持

新体制でのモニタリングを実施しており、引き続きモニタリングを行います。

産業廃棄物発生量合計

2022 年度:2122.37t

2023 年度:706.29t

エコワークスの発生量が 2022 年度 1118.06t に対し 2023 年度は 667.85t となり、会社の発生量削減に大きく寄与しています。受入物にもよりますが、引き続き維持活動を進めていきます。

4. 社会貢献

・ペットボトルキャップや使用済み切手、紙類、金属類の資源類

分別方法や分別を促すポスターを掲示しました。

収集した資源類は引き渡す際に計量し、寄付やリサイクルされます。今年度の実績はありませんでしたが、引き続き活動を進めていきます。



・地域の清掃活動への参加

地域の清掃活動に参加し、街のゴミ拾いや市内公園の清掃活動を行いました。



5. 再生覆土材等の原料受入量 7000t/年

上記の環境目標達成のため、再生覆土材等の原料となる無機汚泥及びばいじんの受入量の集計を行いました。結果は以下の通りです。

受入量	4 月分	5 月分	6 月分	7 月分	8 月分	9 月分	1 0 月分	1 1 月分	1 2 月分	1 月分	2 月分	3 月分	計
もえがら	406.35	415.40	126.94	214.30	192.29	162.64	141.27	295.19	196.41	382.6	396.3	363.8	3,293.49
ばいじん	577.07	538.85	379.30	426.12	463.65	418.54	237.72	457.53	442.51	434.46	256.12	389.53	5,021.40
エコワークス (t) 総量	983.42	954.25	506.24	640.42	655.94	581.18	378.99	752.72	638.92	817.06	652.42	753.33	8,314.89

新施設が本格稼働し、原料受入量が 8314.89t となり目標達成となりました。

次年度以降もリサイクル製品の製造量を増やすため、原料受入量を増やしていきます。

6. サステナブルシステムによる埋め立て処分される廃棄物量の削減

	4 月 分	5 月 分	6 月 分	7 月 分	8 月 分	9 月 分	1 0 月 分	1 1 月 分	1 2 月 分	1 月 分	2 月 分	3 月 分	計
再生資材の出荷量 (㎡)	2,064	3,904	1,832	2,552	3,144	4,571	2,696	2,024	2,512	0	0	0	25,299

サステナブルシステムの稼働による受入量が増加した分、これまでよりも出荷量が増加していると考えられます。次年度以降も出荷量を増やせるように引き続きシステムの安定稼働をさせていきます。

7. サステナブルシステムによる CO2 排出量の削減

	4 月 分	5 月 分	6 月 分	7 月 分	8 月 分	9 月 分	1 0 月 分	1 1 月 分	1 2 月 分	1 月 分	2 月 分	3 月 分	計
CO2削減量 (t)	502.53	487.62	258.69	327.25	335.19	296.98	193.66	384.64	326.49	417.52	333.39	384.95	4,248.91

当社から排出される総 CO2 排出量と比較すると大幅に削減に寄与していると言えます。

この結果から、当社の CO2 排出量と CO2 削減量を合計すると、

総 CO2 排出量 1157.95t－総 CO2 削減量 4248.91t＝－3103.3t

となり、当社の活動は CO2 排出において大きく貢献していると言えます。

(7)次年度の実施内容(2024 年 4 月～2025 年 3 月)

①CO2 排出量のモニタリング

- ・ナチュラルビズの呼びかけ、実施
- ・電気使用量モニタリング
- ・燃料添加物の使用・モニタリング新体制の構築
- ・エコドライブ啓発

②水使用量の維持

- ・節水ポスターの掲示・モニタリング・使用量のフィードバック

③産業廃棄物発生量の維持

- ・新体制でのモニタリング

④社会貢献

- ・ペットボトル・使用済み切手・紙類・金属類・資源類
- ・地域の清掃活動への参加

⑤再生覆土材等の原料受入目標 7000t／年

- ・新施設稼働のための新体制モニタリング

⑥サステナブルシステムによる埋め立て処分される廃棄物の削減

⑦サステナブルシステムによる CO2 排出量の削減

- ・システムの安定稼働

(8) 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果, 並びに違反, 訴訟などの有無

1.環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果

環境関連法規などの遵守状況の評価の結果は「環境関連法規などの遵守状況の結果」を使用しました。

主な環境関連法令は以下です。

- ・廃棄物の処理及び清掃に関する法律(廃掃法)
- ・水質汚濁防止法
- ・毒物及び劇物取締法

2.違反・訴訟等の有無

2023 年 4 月～2024 年 3 月で、環境関連法規等の違反・訴訟はありませんでした。

また、関係当局からの違反等の指摘もありませんでした。

全体の評価と見直し(Act)

(9) 代表者による全体の評価と見直し・指示

取り組み状況の評価

1. CO2 排出量のモニタリング

社屋移転や新設備導入などの背景がある中で、前年度から CO2 排出量を維持することができたのは社員の努力によって得られた大きな結果だと捉えている。次年度以降も同様の活動を実施しながらモニタリングを継続するとともに、自社発電などのプラス要素の活動や車両入れ替えによる燃料使用量の削減に寄与できることを考え実施していきたい。

2. 水使用量の維持

水使用量が 54.3%増加した。新設備導入の初年度ということもあり、節水の意識だけでは難しいと考え井戸水を得るための工事を実施した。このことにより、サステナブルシステムへの水の供給だけでなく、脱水設備や分離・生物処理施設への水の供給、構内への洗浄用にも使用することができる。次年度以降も同様の活動を実施しながらモニタリングを継続する。

3. 産業廃棄物の発生量の維持

前年度は海生物汚泥による夾雑物が多く発生したことや、本社移転に伴う廃棄物が発生したので今年度目標達成となった。次年度以降、新たな品目を追加し受入する廃棄物を増やすことに伴い、発生量削減にも意識し活動を継続していく。

4. 社会貢献

活動の趣旨は良いが、結果として 1 年間で成果を上げられなかった。また、集めた結果どのようになるのかを明確にしていなかったため、活動が惰性になっているように感じた。次年度以降は達成時の成果を考慮し、目標からは外し活動は継続するように進めていく。

5. 再生覆土材等の原料受入量目標 7000t/年

6. サステナブルシステムによる埋め立て処分される廃棄物量の削減

7. サステナブルシステムによる CO2 排出量の削減

サステナブルシステム導入により、受入量増加とそれに伴い製品生産量の増加、CO2 排出量の削減と大きな成果として評価している。次年度からは新たな原料が追加となり更に成果として期待しているので、適切な数値目標に向かいながら活動の幅を広げたい。

実施体制の評価

5 月初旬に環境事務局員が退職となり、事務局の機能を維持することに関しては苦勞した。合わせて、前年度の課題でもあった現場への周知についても進めることができなかった。各部署の責任者への教育など意識を高められる活動が必要と考える。

環境方針、環境経営目標及び環境経営計画、実施体制

変更の必要性はなし

関係法令遵守状況

法令違反はなし

総括

全体的に活動の成果として、事業拡大したことによる環境影響がほとんどなかったと認識している。また CO2 の削減効果が得られる活動ができていることについて、どんどん拡大していきたい。事務局機能は次年度以降、職務分掌を含めて検討するが現状はこのまま進めていく。目標については、もっとわかりやすい表現にし、周知していく。